

This is a newsletter from Shinshu University International Center (SUIC).
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version
http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/publications/suicnewsletter_vol.36.pdf

◆◆◆◆◆ Vol. 36 2012. 5. 15 ◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆
信州大学国際交流センター ニュースレター
Shinshu University International Center (SUIC) Newsletter

◆◆◆◆◆ ◆◆◆◆◆
発行：信州大学国際交流センター(SUIC)
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

[今号の目次]

- * ごあいさつ
- * 最近の出来事
- * 信大NOW No. 74
- * スタッフ近況報告 上條 厚 先生 (全学教育機構教員)
- * 生活ちょっとコラム

■□
□ ごあいさつ

みなさんこんにちは！

前回、3月にニュースレターを発信したときにはまだ冬の寒さで、雪の話題などをお届けしましたが、今、信州はすっかり春！・・・というよりはときどき初夏を感じるような強い日差しも珍しくない今日この頃です。信州は四季がはっきりしていると言われますが、心地よい春と秋はなんて短いのでしょうか！

ゴールデンウィーク中には、あちこちで田植えをする姿が見られました。水を張った田んぼに、切り絵のように雪の残った山々が映し出される田園風景は、美しい信州の春を象徴する景色です。わたしも休み中は実家のある安曇野に出かけ、おいしい空気をたくさん吸ってリフレッシュしてきました。

それでは、今日も元気いっぱいニュースをお届けします！

■□
□ 最近の出来事

★信州大学入学式が行われました

信州大学入学式が4月4日（水）に松本市総合体育館で行われ、全8学部の新入生と編入学生、合計2,194人が入学しました。

山沢清人学長は告辞で「安全・安心で人に優しい社会システムの構築が急務になっている。そのイノベーションの担い手として活躍することを期待する」とあいさつし、新入生を代表して、理学部の向井進之助さんは「信州大学における学生生活を通して、人間として成長し、社会に求められ、貢献できる人材となるよう、常に向上心をもって学び、専門的な知識や人とのつながりを更に深めるとともに、様々な活動に積極的に参加する」と決意を述べました。

詳細はこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/2012/04/24-3.html>

★新学期恒例 留学生の松本市内バスツアーと歓迎会が行われました

4月28日、「松本留学生応援ファミリーの会」主催による留学生のための市内バスツアーと歓迎会が行われました。当日はとても良いお天気に恵まれ、一行は伝統ある味噌工場や郊外にある「松本市歴史の里」を訪れました。「松本市歴史の里」では江戸時代から昭和初期にかけて建てられた裁判所、少年刑務所、製糸工場などを見学することができ、留学生が訪れたときにはちょうど繭玉から絹糸を作る作業の実演が行われていて、皆とても興味深げに見学していたそうです。

また歓迎会には60名以上の留学生とファミリーの会メンバーが参加し、おおいに盛り上がり親交を深めました。

写真はこちら（石井味噌にて）

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/photo/20120428bustour.JPG>

★震災復興支援ボランティア「農援隊」が学長賞を受賞

信州大学農学部栄村震災復興支援隊（略称：「農援隊」）が学生表彰として信州大学学長賞を受賞し、その授賞式が平成24年4月4日の平成24年度入学式に続いて行われました。

「農援隊」は、平成23年3月12日に発生した長野県北部地震で被災した長野県栄村の復興支援のために、同年4月に農学部の有志の学生・教職員により立ち上げられたボランティア組織です。農援隊はその後、約9ヶ月間にわたり、のべ153人が地元のボランティア組織と連携し、農作業の手伝いや復興イベントの運営などの支援活動を行いました。今年度も引き続き活動を続ける予定です。

詳細はこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/news/2012/04/47157.html>

★「信大Y O U遊未来（Chance）」19（2012）発足式が行われました

4月7日、教育学部にて、平成24年度「信大Y O U遊未来（Chance）」19（2012）の発足式が行われ、運営に参加する学生や活動地域で連携する関係者等、約70名が集いました。

“信大Y O U遊”は農作業や遊び、イベントを通じて子どもや保護者、地域の方々と触れ合う、学生たちの自主運営で行われる活動で、田畑の作付けから計画し、収穫までの一連の作業を英語で行う「信大茂管Farming Village」（旧信大茂管ふるさと農場）など、地域と連携し、それぞれに工夫し企画した活動を行います。参加する学生たちは、少々の困難も楽しみととらえて活動していこうという、力強い意気込みを感じさせる発足式となりました。

詳細はこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/2012/04/24chance192012.html>

■ □

□ 信大NOW No. 74のご案内

信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介、研究者の研究内容など、信州大学が良くわかる広報誌「信大NOW」最新号の目次を紹介します。

<No. 74>

○地域と歩む。信州大学
[其の四 安曇野市]

- ・安曇野と人文学部
2012. 3. 10地域ブランド研究会研究大会2012 in 安曇野
「安曇野ブランドと安曇野景観を考える」より
- ・安曇野市と信大附属図書館の文化コラボ
- ・豊富な地下水で拓け、安曇野の未来
- ・多様な生き物が育まれる安曇野で― ①
水生生物の調査、保全活動からRDBづくりへ
- ・多様な生き物が育まれる安曇野で― ②
絶滅危惧種のオオルリシジミを復活させる

○信州大学 国際動物バイオテクノロジー会議開催
動物におけるバイオテクノロジーの現在を国際的視点から俯瞰する

○農工商連携・6次産業化で活躍する 地域の次世代リーダーを輩出
信州直売所学校、2年間の軌跡

○TOPICS

エコチル信州シンボルキャラクター発表、
「胃癌発生を抑える胃腺粘液の糖鎖」に関する記者会見、
地域卓越研究者戦略的結集プログラム中間報告会（東京）で信州大学
エキゾチックナノカーボンの創成を応用プロジェクトが最新の研究成果を
発表、
平成23年度「市民開放授業受講生と学長との座談会」および「修了証
授与式」を開催

○信大キャンパスの「樹」シリーズ⑤
エドヒガン 南箕輪（農学部）キャンパス

全文は信州大学の公式Webサイト上でデジタルパンフレットとして公開
されていますので、ぜひご覧ください。↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/#publication>



□ スタッフ近況報告 上條 厚 先生（全学教育機構教員）

皆さん、お元気ですか。この欄にまたわたしが書きます。
お元気でご活躍のことと思います。わたしも元気です。今年も日本語・日本
事情の授業をしています。最近では真面目な学生ばかり。学生諸君と楽しく過
しています。

最近日本ではいろいろな異常なことがあります。気候も異常です。この間も
竜巻による被害がありました。災害はいつあるか分からないから、皆さんも
気を付けてください。ことわざに「災害は忘れたころにやってくる」とい
うのがありますが、忘れないことが大切ですね。わたしは授業で時々、富士山
の噴火の歴史を話してからこう言っていました。「富士山がいつ噴火を始め
ても不思議ではありません。富士山が噴火するのは明日かもしれません」

話し変わって、この間、ある修了生が訪ねて来てくれました。修了後帰国
した人でしたが、話しを聞くと、日本のある県の国際交流員になって、今そ
の県に在るとのことでした。その人が信大で勉強していたころのことを思い
出して、しばらく話しをしました。

別の卒業生も訪ねて来ました。その人は帰国してから日本語を教えるとの
ことで、いろいろ資料を集めて行きました。みんないろんな所でがんばって
いるんですね。皆さんも負けずにがんばってください。

また話し変わって、学生諸君を相手にしていると、時々意外なことを聞か
れることがあります。それが面白いし、ためになると言えばためになること
で、今まで気が付かなかったことに気付かされることもあります。この間は
こんなことがありました。

授業のときにわたしは、平仮名は漢字を元にして出来ている、「あ」の元
の字は「安」で、アの平仮名には昔は「阿」を元にしたものがあった、とい
うような話しを毎年しています。今年もしました。そうしたところある学生
から、「安（アン）」の字がどうしてアを表す仮名になったのかと聞かれ
ました。

確かに言われてみると変ですね。だけどわたしも含めて、たいてい人は、
本などにそう書いてあればそのまま信じて、特に疑問に思わないようなこと
です。しかしこれは疑問を持ってしかるべきことです。わたしはすぐには答
えられなかったので、よく準備してから答えました。

こうしたことは一例ですが、わたしは学生諸君との交流の中で新たなことに
気付き、自分自身を鍛えながら仕事をしています。

では、皆さん、ご健康に留意してがんばってください。皆さんのご健闘を祈
っています。

2012. 5. 14 上條 厚



□ 生活ちょっとコラム ～カルチャーショック？～

新年度を迎え、今年もたくさんの新しい外国人留学生を迎えました。
いままで日本の学校で勉強していた人もいれば、4月に初めて日本にやって
きた留学生も多くいます。みなさん日本の生活に少しは慣れたでしょうか。

